



研修体験談

「大島病院での地域医療研修」

関門医療センター卒後臨床研修
初期研修医2年目 濱永 友花里

掲載日:令和6年1月19日



周防大島町の
現状

訪問診療

訪問看護・リハ

福祉用具体験

感想

大島病院での地域医療研修

下関医療センター 研修医 濱永友花里

- ・ 人口 14,074人（65歳以上 55.2%、75歳以上 34.4%）
 - ➡ 人口減少と高齢化がかなり進んでいる。
- ・ 高齢の方の独居、高齢の夫婦の2人暮らしが多い。
 - ➡ ADL低下時に介護してくれる若い人がいないことも多い。
- ・ 急斜面、かなり細い道路が多い。
 - ➡ 高齢の方が自力で通院するのは難しい。
- ・ 古い作りの家が多く、家の中の段差大きい。



- ・ 自宅へ向かう道が大変なところが多く、訪問診療の必要性を感じた。
- ・ 自宅に出向くことで、お薬の管理や自宅環境を見ることができる。



- ・長く経過を見ている方もおり、
信頼関係の構築、踏み込んでいい領域の線引きの重要性を感じた。
- ・自宅での診療のためあまり診察道具などはないが、
訪問してお話することで患者さんが安心している様子を感じた。

- ・看護では摘便や入浴などのご自身がするには難しいことを介助。
- ・患者さんの家は病院ほど設備が整っていないが、
手すりや浴室の改修、福祉用具の導入などにより
介助による入浴がしやすいように工夫されていた。
- ・ただ、改修や福祉用具の導入は患者さんが納得し購入してもらう
必要があるため、なかなか導入してもらえないことも。

- ・リハでは高齢者夫婦の2人暮らしの家に訪問。
PTに見守られながらリハビリできるため安心。
- ・実際に自宅を訪問して動作をみてもらい、
杖の高さの修正や福祉用具の導入を提案してもらえるため
より実際の生活に合った的確なアドバイスができる。

- ・同じ車椅子、マットレスでも、いろいろな種類があり、
その方に合った機能の付いた道具を使える。
- ・介護保険・医療保険を使えば
リーズナブルにレンタルできる。



- ・手すりにも種類があり、目的に合わせて工夫がされていた。

- ・設置は1日でできるとのこと。
早いのもありがたいと思った。



- ・ 普段研修している病院とは異なり、
より患者さんの実際の生活に近い医療に触れることができた。
- ・ 介護施設での生活の様子を見ることができ、
イメージしやすくなり今後の診療に活かしたい。
- ・ 大島病院の外来に来られる方は
ー10歳くらいに見える、お元気な方が多くてびっくり！

周防大島町の
現状

訪問診療

訪問看護

福祉用具体験

感想

5 週間大変お世話になりました😊